

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売所
Tel.3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

添え木となつて繋ぐ。子ども村… 中高生ホッとステーション

「中学生・高校生の孤立した子ども
の居場所です。」

子ども村…中高生ホッとステーションは、毎週木曜日（18時～20時半頃）開設しています。荒川区内の孤立した子ども達（友達がいらない・家で一人である時間が長い。進路・人間関係・部活など悩み事がある・家族の支援を受けられない・学校の学習についていけない等）親以外の大人達が夕食を共にし、学習したり、話やゲームをしたり、相談にのじたりして、触れ合い支援しています。

また 孤立した保護者の方々への支援も行なっています。

子どもの相対的貧困率は上昇傾向です。特に経済的に困窮しているひとり親家庭の貧困率は高い割合になっていますが、それだけでなく、お母さん、お父さんが働いているため、子どもだけで過ごす時間が多い。親も子どもの学習にかかわる精神的、時間的な余裕がない。これらが学力の低下につながっている事も多いです。そして、生活面でも保護されること、守られる体験が

少ない、家族の団らんの体験が少ない、大人から認められたり、褒めてもらう機会が少ない、生活の中で学ぶことが少ない、自己肯定感が育まれないなど、さまざまな影響が子ども時代に覆いかぶさっております。

「税金の払える社会人になろう」

「税金の払える社会人になろう」と、ここでは、20代～70代のボランティアが学習、進学、友人関係などの悩みをもつて通ってくる子どもを、今は高校に全員進学できるように色々な角度で支援し見守っています。

助けてと言えずに来た子ども達に寄り添い、正面から向き合っています。仕事帰りに寄って勉強を教えている方もいます。大人にとつても一人で食事するよりも、ここで触れ合いの時間を持つことでボランティアの方達の居場所にもなっています。

「20代のボランティアが切り口になってくれます」

20代は年齢も近く、子どもの目線に立ち返って別の角度から対応しています。携帯端末の普及でオンラインゲームへ依存する子どもも多く、彼らに寄り添うために一緒にゲームを作り、その際、数学の知識が必要であることを気づかせ、勉強への動機付けをしたりしたそうです。どこが岐路なのか、どこで前進するの

かを子ども本人に任せても子どもの力だけではなかなか難しいことです。

「あきらめて将来をなかなか展望できない子どもが自分で立ち上がり、自主的になれるようにするのは大変です。毎回違う問題が発生します。しかし、子どもを見つめて行くうちに見えないものも見えて解決の糸口が出てきます。」

と話す代表の大村みさ子さん。

子どもの歓声と優しい大人の眼差しが眩しく感じられました。

子ども村…中高生ホッとステーションはかけがえのない今を将来に繋げる子どもに光を差し込む。温かい場所でした。

《子ども村：中高ホッとステーション》

荒川区東尾久6-16-22松石商店3F
正会員会費・賛助会員会費・寄付、助成金で
運営しています。

連絡先：080-5095-5055(大村)